

Web daily Sannichi Evening

2013 / 1 / 8 tue

contents

- 四万十川で海水魚増えてます…… 4
世界を変える「シェール革命」…… 5、6
「分人」から問う生と死…… 7
ザック監督が語る代表進化術…… 8

発行 山梨日日新聞社(甲府市) Email henshu@sannichi.co.jp TEL055(231)3000



独自に甲州弁放送を店内に流しているTSUTAYA南アルプスガーデン店 ー南アルプス市

TSUTAYAで甲州弁放送?

あなたの
ギモンに
答えます

全国展開するCD、DVDレンタル大手「TSUTAYA」。その中の一店舗、「TSUTAYA」南アルプスガーデン店(南アルプス市十五所)のみ、こんなやり取りの店内アナウンスが流れる。「ちょっと知ってるけ?」「なによ?」。会話は続く。「すげえじゃん! だけんど、じきけえさんとな

らんずら?」…。全国各地に店舗を構える「TSUTAYA」に甲州弁が使われているのだ。どうして同店だけ甲州弁が流れてるでえ? 店長に聞いてみることに。

〈沢登雄太〉

2面へ

五緒川さん監修の「本格派」

南アルプスガーデン店は、県内でTSUTAYA 3店を運営する兼松コミュニケーションズ（本社東京）がフランチャイズ契約を結び、経営している。店長を務める落合直人さん（29）は、2012年3月に愛知の店舗から山梨に赴任した。

店内独自に何かできないか考えを巡らせていたところ、地元出身の従業員・伊藤和子さん（46）の甲州弁に耳を奪われたと振り返る。「何てインパクトのある言葉なんだろうと思った。印象に残る言葉なので、会話仕立ての店内放送をやってみよう」と取り組んだ

甲州弁の監修は、ベストセラー「キャン・ユー・スピーク 甲州弁？」の著者で知られる五緒川津平太（ごっちょがわ・つっぺえた）（南アルプス市出身）さんに依頼。会話の男性役は落合店長が担当し、相方（女性役）は、従業員の伊藤さんが務めることに。

昨年10月から流れている店内放送の全容は、以下の通り。

A「ちょっと知ってるけ？」

B「なによろ？」



「地域の人に『親近感』を持ってもらいたい」と話す落合直人店長

A「TSUTAYAの話さあ〜」

B「ツタヤってあのTSUTAYA け？」

A「ほおほお。今新作・準新作のDVDを4枚借りると1000円だっちゅーよ？」

B「ほんとけえ??？」

A「普通490円の新作が1枚250円でレンタルできるからすんごい得じゃんね！」

B「すげえじゃん！ だけんど、じきけえさんとならんずら？」

A「ちごおよ！ 新作は2泊か1

週間の最長泊数で1枚250円だっつーこん！」

B「まじけえ！ そりゃあ行くしかねえら？」

A「ほうずら？ お前も早く行ってこおしい！」

B「ほうだね。それじゃ一緒に行くじゃんけ」

10分に1度流れる店内放送。多少、棒読みの感じが「素朴さ」を生んでいる。放送開始当初は、「何これ？」と客に思われていたが、最近は口コミで広がり始めていると落合店長は言う。

「スマートフォンが普及し、便利なアプリを使う人が多くなっているため、これまでのようにDVDを借りて鑑賞する人が少なくなってきた。こんな時だからこそ、人と人のつながりを強くしたいと考え、『お得意さん』になってもらえるよう地元になじみ深い甲州弁を取り入れてみた」

今後は、コミックレンタルなど新しいキャンペーンごとに、甲州弁を使った「続編」を店内に流していきたいと考えているそうだ。

スピーカーから甲州弁放送が10分に1度流れる
TSUTAYA南アルプスガーデン店

